

(1) 実施機関名：

産業技術総合研究所

(2) 研究課題（または観測項目）名：

活断層データベースの整備

(3) 関連の深い建議の項目：

1 地震・火山現象の解明のための研究

- (1) 地震・火山現象に関する史料・考古データ、地質データ等の収集と解析
- ウ. 地質データ等の収集・集成と分析

(4) その他関連する建議の項目：

1 地震・火山現象の解明のための研究

- (2) 低頻度大規模地震・火山噴火現象の解明
- 地震

2 地震・火山噴火の予測のための研究

- (1) 地震発生の新たな長期予測
- イ. 内陸地震の長期予測

3 地震・火山噴火の災害誘因予測のための研究

- (1) 地震・火山噴火の災害誘因の事前評価手法の高度化
- ウ. 大地震による災害リスク評価手法

4 地震・火山噴火に対する防災リテラシー向上のための研究

- (2) 地震・火山噴火災害に関する社会の共通理解醸成のための研究

5 研究を推進するための体制の整備

- (2) 総合的研究
- イ. 首都直下地震

(5) 総合的研究との関連：

首都直下地震

(6) 平成30年度までの関連する研究成果（または観測実績）の概要：

平成30年度までには、「活断層データベースの整備」（研究課題番号5002）を実施してきた。産業技術総合研究所では、全国に分布する活断層のうち、大地震の震源となる可能性が高い長さ10 km以上の活断層について、これまでの調査情報・研究成果のデータ化とそれぞれの活断層のパラメータに関する情報を整備している。平成25～30年度の間には、論文等から断層パラメータの抽出・データ化の作業を30件実施したほか、活断層を表示させる画面の背景地図の多様化と活断層線および調査地点情報の検索方法の修正等を行った。

(7) 本課題の5か年の到達目標：

活断層の長期評価に資するデータベースであるだけでなく、強震動評価や断層変位による被害の軽減に資する活断層情報を発信する。一方で、活断層研究者のみならず、地震防災に関わるあらゆる人が理解可能なデータ提供を試みる。また、古地震研究に関する他のデータベースとの統合を検討する。

(8) 本課題の5か年計画の概要：

活断層データベースのさらなる活用を目指し、下記の業務を行う。

2019年度には、断層活動イベントのページの改修、調査地の位置精度を向上させる作業、データ入力インターフェ이스の作成等の作業を実施する。

2020-2021年度には、活動セグメント内の「セクション（断層線）」および「地点」に関する情報を追加し、各調査地がセクションごとに表示される改修作業を実施する。

2022-2023年度には、表示インターフェイスを改修し、起震断層・活動セグメント・調査地の情報を充実させる。

(9) 実施機関の参加者氏名または部署等名：

吾妻 崇・宮下由香里・丸山 正・宮本富士香（産業技術総合研究所 活断層・火山研究部門）
他機関との共同研究の有無：無

(10) 公開時にホームページに掲載する問い合わせ先

部署名等：活断層・火山研究部門

電話：029-861-3691

e-mail：

URL：https://gbank.gsj.jp/activefault/index_gmap.html

(11) この研究課題（または観測項目）の連絡担当者

氏名：吾妻崇

所属：活断層・火山研究部門